

2024 年度 認定こども園進徳幼稚園自己評価結果報告書

人間性を豊かに育て、幼児期に必要な様々な経験を通して、心身ともに健全でたくましい子どもが育つよう3つの教育目標（「生きる力」の育成）を掲げている。

1. げんきであかるい子（体）
2. こころのやさしい子（徳）
3. よく考え、工夫し、表現する子（知）

1. 重点的に取り組んだ目標・評価

ICT 化により導入しているシステムを活用し、保育計画や振り返り、研修内容等を共有することで、保育者全員が園全体の保育教育活動を見通せる環境を推進した。それにより保育者間で情報交換が活発になり、より良い保育教育活動を目指す有益な検討が重ねられ、その結果、子ども達の成長を以前に比べ総合的かつきめ細かくサポート出来たと評価している。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A…達成できた B…概ね達成できた C…概ね達成できたが課題が残る D…努力が必要

評価項目	取り組み状況	評価
導入しているシステムやツールを見直し、業務に必要な機能を精査して、更に効率よく利用できるようにする。そのことにより子どもたちと向き合う時間が増えることで保育の充実を図る。また、保育者の労働環境を整えることで保育の向上を目指す。	これまでの過程で取り入れてきた中から保育現場に適したツールを積極的に活用したことで、保育者間のタスク管理、情報やフィードバックの共有が確実に効率よく行われた。それは保育者にとって快適な環境であり、更には保育に向き合う時間が増えることで保育内容の向上に繋がった。	A
子育て世代が抱える課題を知り、園として取り組めることを模索していく。また多種多様な保育ニーズを必要とする園児に対し、一人ひとりが安全・安心・安定した生活を送る為には何が必要かを探り、保護者と連携共有を図る。	懇談会やPTA 委員会、アンケートなどの実施や個別の対応を通じて、保護者の意見や要望を把握し、園としての方針を伝えたり、改善に努めたりした。また保護者支援を必要とする家庭には個々の保護者に適した支援を行い、全家庭に偏りなく安全・安心・安定した保育環境の提供を行うことが出来た。	A
昨年度の研究により見えてきた課題について引き続き分かりやすい情報発信を続け、園だけでなく保護者と共に食育教育に取り組めるよう工夫をする。また、新たな課題も探り、より深く研究を進める。	学年内はもちろん、他学年とも連携をとりながら課題（主に食具の扱い）に取り組み、成果が得られてはいるが、家庭への情報発信という点では伝達方法が一方通行の部分もあり連携不足は否めない。今後に向けて発信方法の検討が必要である。	B

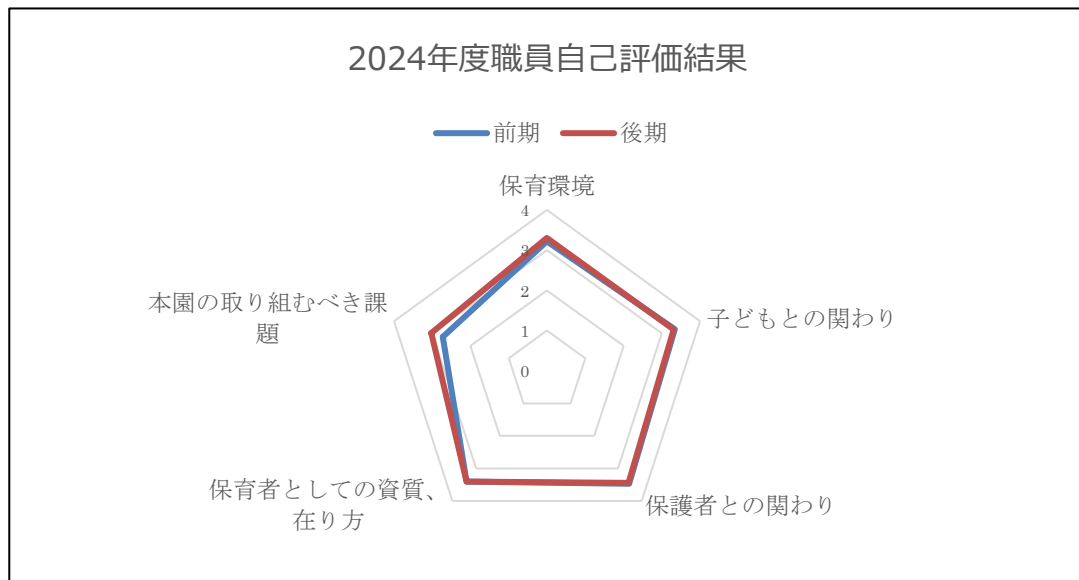
3. 自己評価結果と分析

・評価方法

各職員が各自自己評価を行い、全体の集計を出す（評価項目は最終ページに添付あり）

・分析

「本園の取り組むべき課題」の項目の評価が前期はやや低かった。課題に取り組み始めた時期であり、保育者ひとり一人が課題評価には不十分な段階として厳しく評価したと思われる。その後、後期評価までの間、課題達成への手立てがはっきりし課題に向き合えたことで後期には評価が上がったと思われる。また、すべて項目で評価が上がっており、これは保育者一人ひとりが課題を意識し、改善に向けて努力した結果と評価できる。



5. 今後取り組むべき課題

ICT 化を利用した業務改善による保育の効率化と保育の質の向上を目指す。	導入しているシステムやツールを見直し、業務に必要な機能を精査して更に効率よく利用できるようにする。そのことにより子ども達と向き合う時間が増えることで保育の質の充実を図る。また、保育者の労働環境を整えることで保育の質の更なる向上を目指す。
保護者の悩みに寄り添いながら共に子どもたちの成長を育む。	子育て世代が抱える課題を知り、園として取り組めることを精選していく。また多種多様な保育ニーズを必要とする園児に対し、ひとり一人が安全・安心・安定した生活を送る為には何が必要かを探り、保護者との情報交換及び連携共有を図る。
これまでの研究を活かし食具の使い方と保護者への情報発信の方法を更に研究していく。	今年度の園の研究課題である食具について、子ども達の興味関心を高めると共に、年齢に応じた食具の扱いの指導方法や教材について研究していく。また、家庭での取り組み状況の収集を行い、結果に基づいたアプローチを行っていく。

6. 子ども園評価評議員会（R6.12.7 及び R7.3.20）による意見

- ・作品展について、以前は作品の種類や作品数が多く、楽しくにぎやかさはあったが、ややまとまりに欠ける感じがしないでもなかった。しかし、今回は作品の種類や数が限定、精選され、さっぱりとした洗練された教室内の雰囲気を感じた。展示が工夫され先生方のコーディネートする力や家族など人の流れがスムーズに流れるよう通路も広くとってあり、先生方のレイアウトする力も年々向上しているように思う。
- ・子どもには発達段階に応じた主体性というものがあると思う。絵を描くために、何をどのくらいの大きさと描いたらいいのか。そのことを考えるのが主体性、この部分に何色を塗るのかと色を選び、塗っていく作業をするのも主体性ではないか。絵を描くということは子どもの主体性を育てるために行っていると考えられることも出来る。
- ・食具の指導について、0 歳児の手づかみから始まり、スプーン、フォーク、箸という順序で取り組みの面白さを感じたが、食具の指導は本来、家庭がすべきことではないか。そのことを踏まえた上で家庭との情報交換、実態調査を行い、その調査結果等を家庭に伝えていく中で、食育指導全般にわたり保護者の関心を高めていくことも必要と感じた。

7. 財務状況

- ・R6 年度の会計処理について公認会計士より「適切に処理されている」との評価を受けた。（R7.4.7）

2024年度 自己評価チェックリスト

1 保育環境

		達成 できた	概ね達成 できた	概ね達成で きたが課題 が残る	努力 が必要
1	楽しい雰囲気の中で一人ひとりが安心して遊びこめる環境づくりを心がけている。				
2	季節の変化に応じた環境構成を行っている。				
3	子どもの動線、視線に配慮して遊具や用具を配置している。				
4	発達に合ったおもちゃや、遊具を用意している。				
5	保育室の清潔や換気、採光、温度、湿度などに気を付けている。				
6	活動に必要な遊具や用具、素材などを質、数量などを配慮して用意している。				
7	翌日の保育がスムーズに始められるよう、前日までに全ての設定を整えている。				
8	不審者の侵入や登降園時の安全に十分配慮している。				
チェック 合計数					

2 子どもとの関わり

9	一人ひとりの発達を理解してその子の持つ個性や可能性を大切に育てるように心がけている。				
10	一人ひとりのありのままの姿を受け入れるようにしている。				
11	朝の登園時は特に視診を大切に子ども体調が悪くないかを確認している。				
12	子どもが自ら考えたり、工夫したり出来るような見守り方をしている。				
13	年齢に応じた分かりやすく、聞き取りやすい語りかけをしている。				
14	適切な声の大きさで接している。				
15	子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている。				
16	子ども同士のトラブルに対し適切な対応をすると共に、友達の良さや大切さに気付くような対応をしている。				
17	子どものことについて、常に保育者同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。				
18	他のクラスや異年齢の子どもたちと進んで関わりを持つことを大切にしている。				
チェック 合計数					

3 保護者との関わり

19	全ての保護者に対して、親しみを込めたあいさつや会話をするよう心がけている。				
20	正しい日本語、丁寧な言葉や敬語を用いている。				
21	保護者が要望や相談などを話しやすいように誠実に対応している。				
22	保護者からの意見やクレームには安易に対応せず、園長や主任に報告、相談して対処方法を考えている。				
23	体調不良やケガなどの緊急連絡は相手方の状況に配慮した上で、迅速に、かつ分かりやすく対応するよう心がけている。				
24	送迎時に直接話をしたり、電話や連絡帳などで、日常の子どもの様子を伝達することを大切にしている。				
25	必要ならば個人面談の機会を設け、子どもの姿や育ちの過程を伝え合い、保育への理解を得るよう努めている。				
チェック 合計数					

4 保育者としての資質、在り方

26	子どものささやかな成長が理解出来てそれを喜ぶことが出来る。				
27	子どもと一緒に日々の生活を創りだすことを楽しんでいる。				
28	子どもや保護者との対応には公平さを欠かないようにしている。				
29	自分の保育の評価・反省を怠らず、次の保育と計画に活かせるように努力している。				

30	保育雑誌や専門書などを読んだりして、保育の情報や知識を集めている。				
31	園や子どものことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある。				
32	園長や主任、同僚を尊重すると共に、職員全員でひとつのチームであることを意識している。				
33	子どものこと、クラスのことなどで必要なことは園長、主任に連絡・報告・相談している。				
34	職務上知り得た個人情報などの秘密を守っている。				
35	締切のある仕事や提出物は締め切り日をきちんと守っている。				
36	担当する仕事の計画・実行・反省を最後まで責任をもって行っている。				
37	園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいように片付けている。				
38	自らの健康や身だしなみ(服装・髪形)に気を配り、清潔感があるように心がけている。				
39	研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している。				
40	研修などで得た知識を日々の保育に活かしたり、園全体の向上に役立てられるよう伝達している。				
チェック 合計数					

5 本園の取り組むべき課題（2024年度課題）

41	【ICT化を利用した業務改善による保育の効率化と保育の質の向上を目指す】導入しているシステムやツールを見直し、業務に必要な機能を精査して更に効率よく利用できるようにする。そのことにより子ども達と向き合う時間が増えることで保育の充実を図る。また、保育者の労働環境を整えることで保育の質の向上を目指す。				
42	【保護者の悩みに寄り添いながら共に子どもたちの成長を育む】子育て世代が抱える課題を知り、園として取り組めることを模索していく。また多種多様な保育ニーズを必要とする園児に対し、ひとり一人が安全・安心・安定した生活を送る為には何が必要かを探り、保護者と連携共有を図る。				
43	【引き続き昨年度取り組んだ食育について研究を深める】昨年度の研究により見えてきた課題について引き続き分かりやすい情報発信を続け、園だけでなく保護者と共に食育教育に取り組めるよう工夫をする。また、新たな課題も探り、より深く研究を進める。				
44	【保育教諭としての資質向上に努める（個人目標と具体的計画）】自らの保育を振り返り、適切な個人目標を立て具体的計画のもと、よりよい保育の達成に向けての取り組む。				
チェック 合計数					